

てんてんとぼうさいをまなぼう

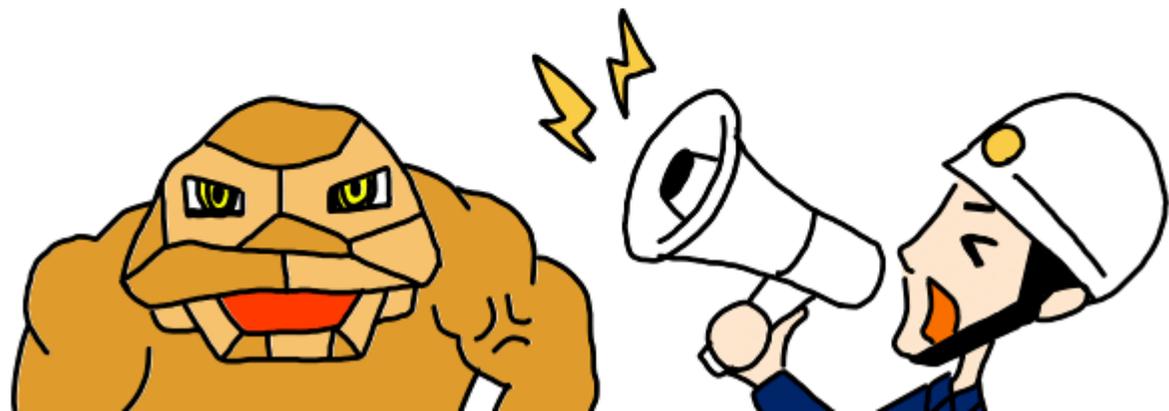
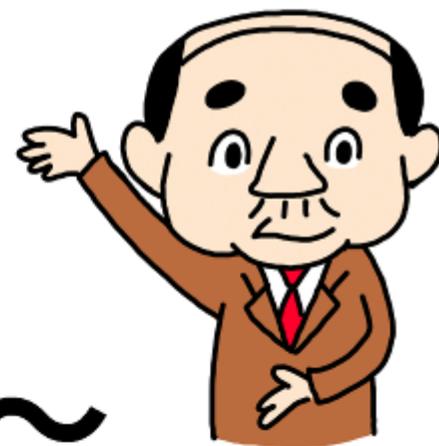
つなみ

～「津波てんでんこ」を

じっこう

実行するぞの巻～

まき



- ① 今日はいいお天気だなあ。学校から帰ったら誰と遊ぼうかな？
てんてんが、いつもどおりに下校しています。
すると…

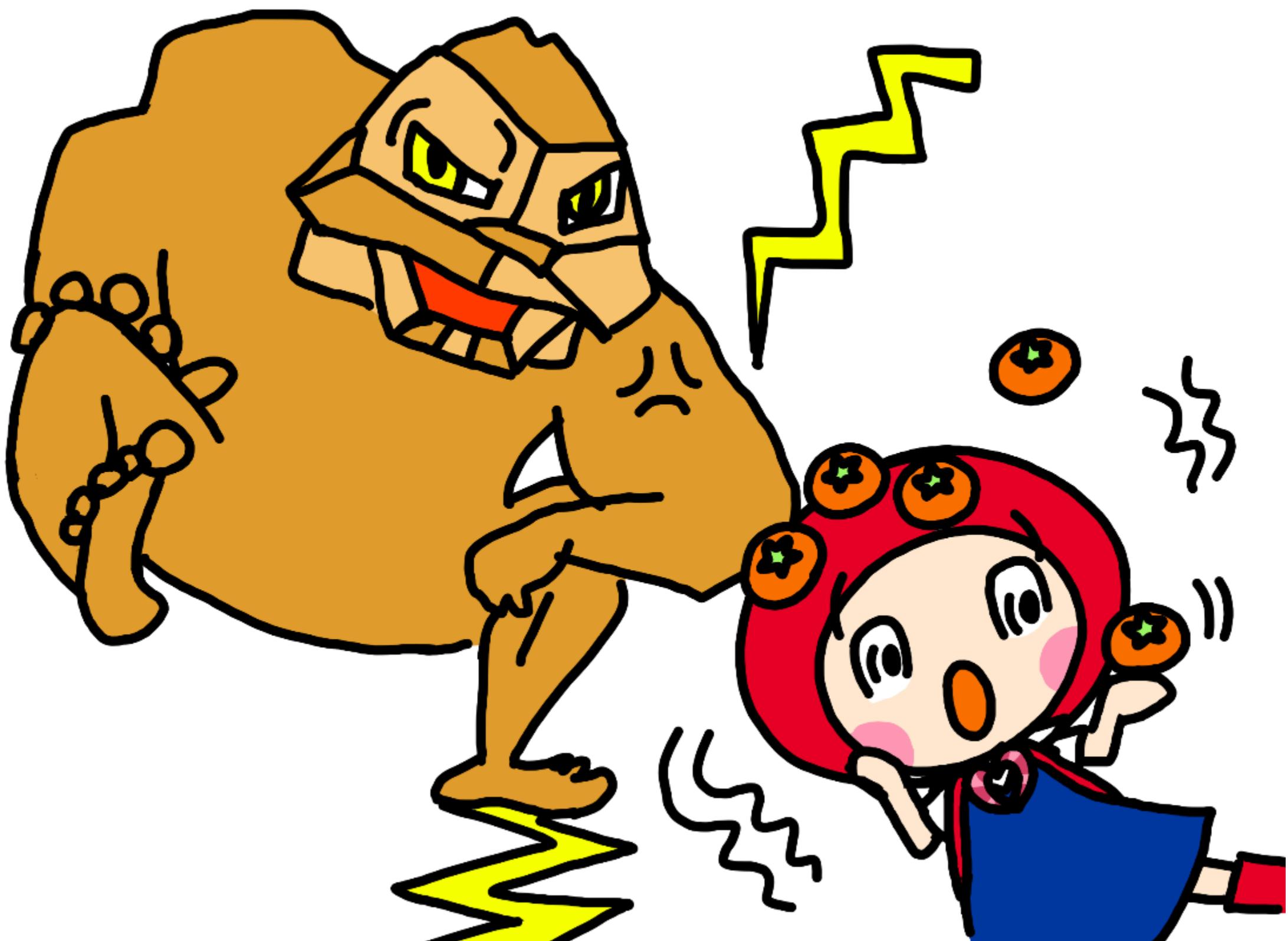




② なんだか、ゆっくりと長い感じで地面が揺れてるぞ！地震だ！地震の怪物「ぐらどん」が地面を揺らしてるんだ！

まずは、今いる場所を確認！ここは、海からも川からも近い場所だっけ。一緒に下校していた友達とも別れてしまったし、一人っきりで怖いよ～。





③ とりあえず、身を守らなくちゃ。防災ずきんは学校にあるから、ランドセルを防災ずきんの代わりにして、頭を守るぞ！ダンゴムシに変身だ！

あ！頭下げたら思い出した！ぐらどん(地震)がいるってことは…!? 前、学校に来たお巡りさんが「ここは地震の後、0分で津波が来るところだよ。」って話してくれたっけ。ざぶりんも、「地震が来たら津波の私もおじゃまするかもしれないよ」って言った。





④ あれ？揺れがおさまった。津波から逃げるのは、「すぐに高い所へ」だったよね。

てことは、このマークの津波避難ビル（タワー）を目指すってことだね！不安だけど、一人でも出来るもん！何度も訓練やったし、防災の勉強もしたんだから大丈夫さ！

そういえば、おばあちゃんが「家族を心配して家に戻っちゃだめ！津波てんでんこだよ」って言ってたっけな。家族を信じてるから、家に行かずに津波避難ビルを目指さなくちゃ！





⑤ ブロック塀や自動販売機が倒れてる。お店の看板や高い階のマンションの窓ガラスも上から落ちてるよ！ホント危ないなあ。

ランドセルで頭を覆って津波避難ビルまで逃げなくちゃ！





⑥ うわー！道路が壊れてるよ！

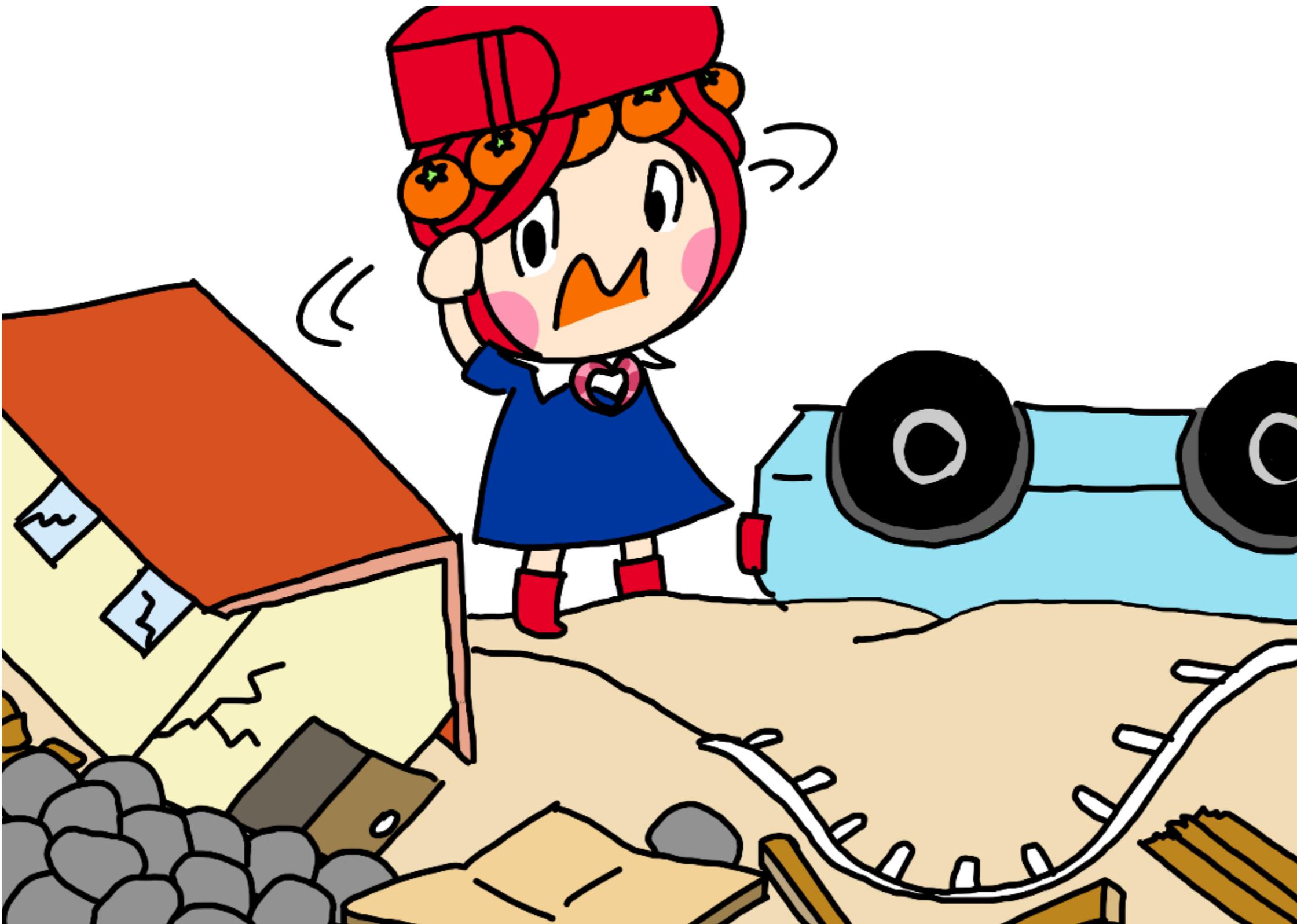
確か、狭い道を避けて広い道を通りなさいってお母さんが言ってたっけ。狭い道じゃあ、壁とかが壊れてきても、よける場所もないから危ないって分かったよ。



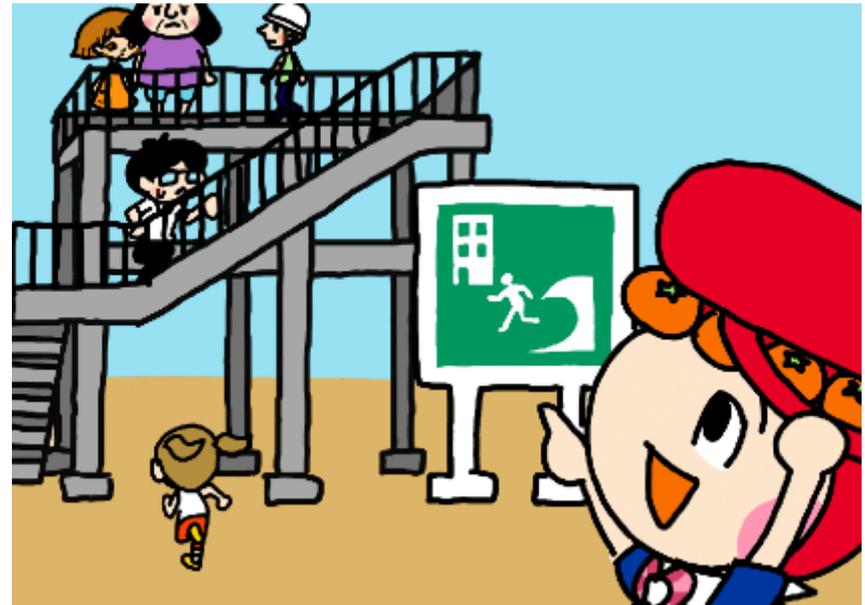


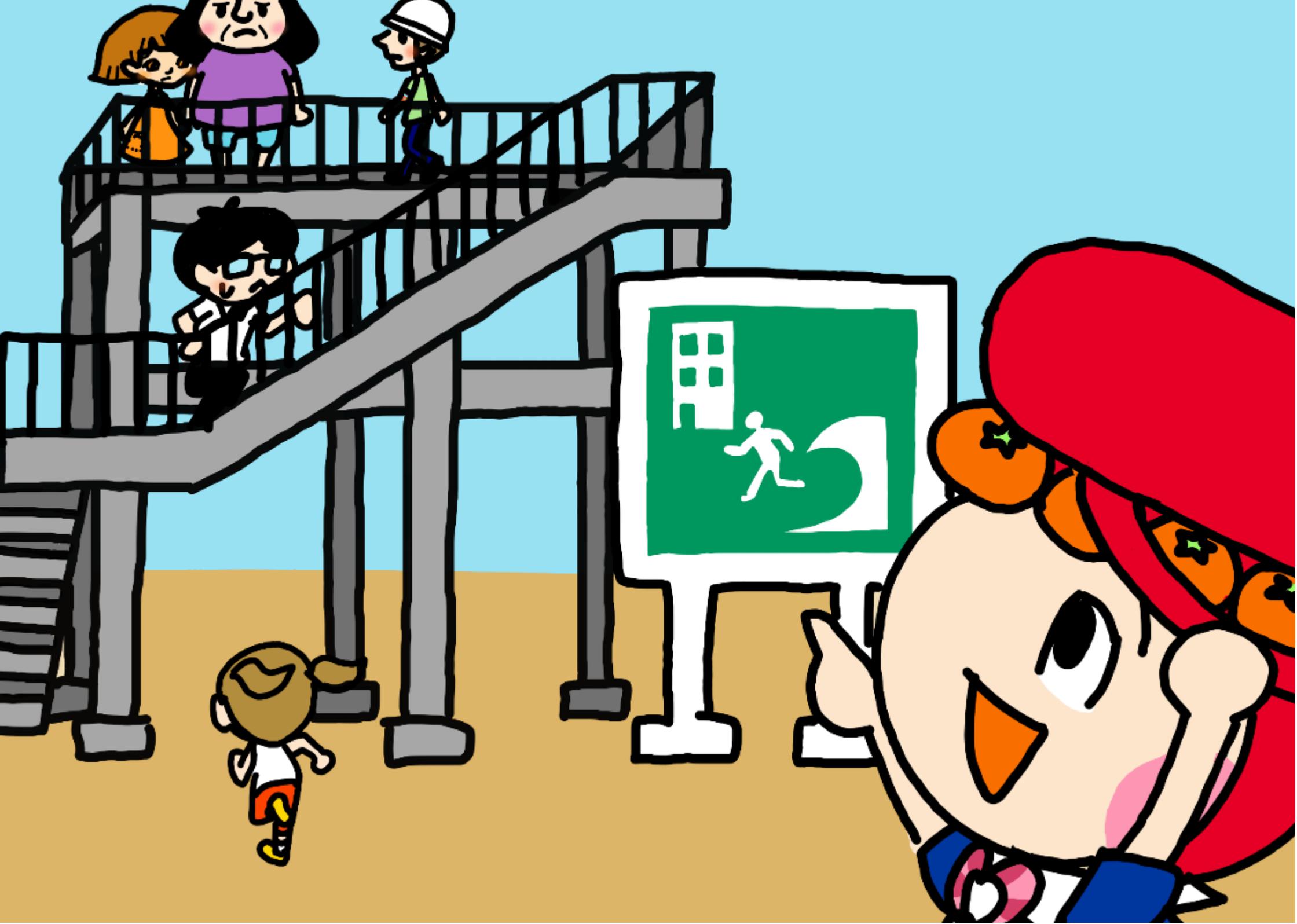
⑦ えー！こっちは家や車が倒れてるよ。こんな大きな地震だったら、山や崖の側を通ったら、土が崩れて来たりして危ないよね。周りが安全か見ながら津波避難ビルまで行かなくちゃ！





⑧ 津波避難ビルのマークあったー！てことは、その横には津波避難ビルだ！





⑨ 「てんてん！」

この声は、お母さん、おばあちゃん、すまほお姉ちゃん！

すまほお姉ちゃんの携帯電話(スマホ)に津波警報が表示されてる！市の広報でも津波警報が発表されたって言うてるよ。津波が来るぞ！早く高いところに行かなくちゃ！





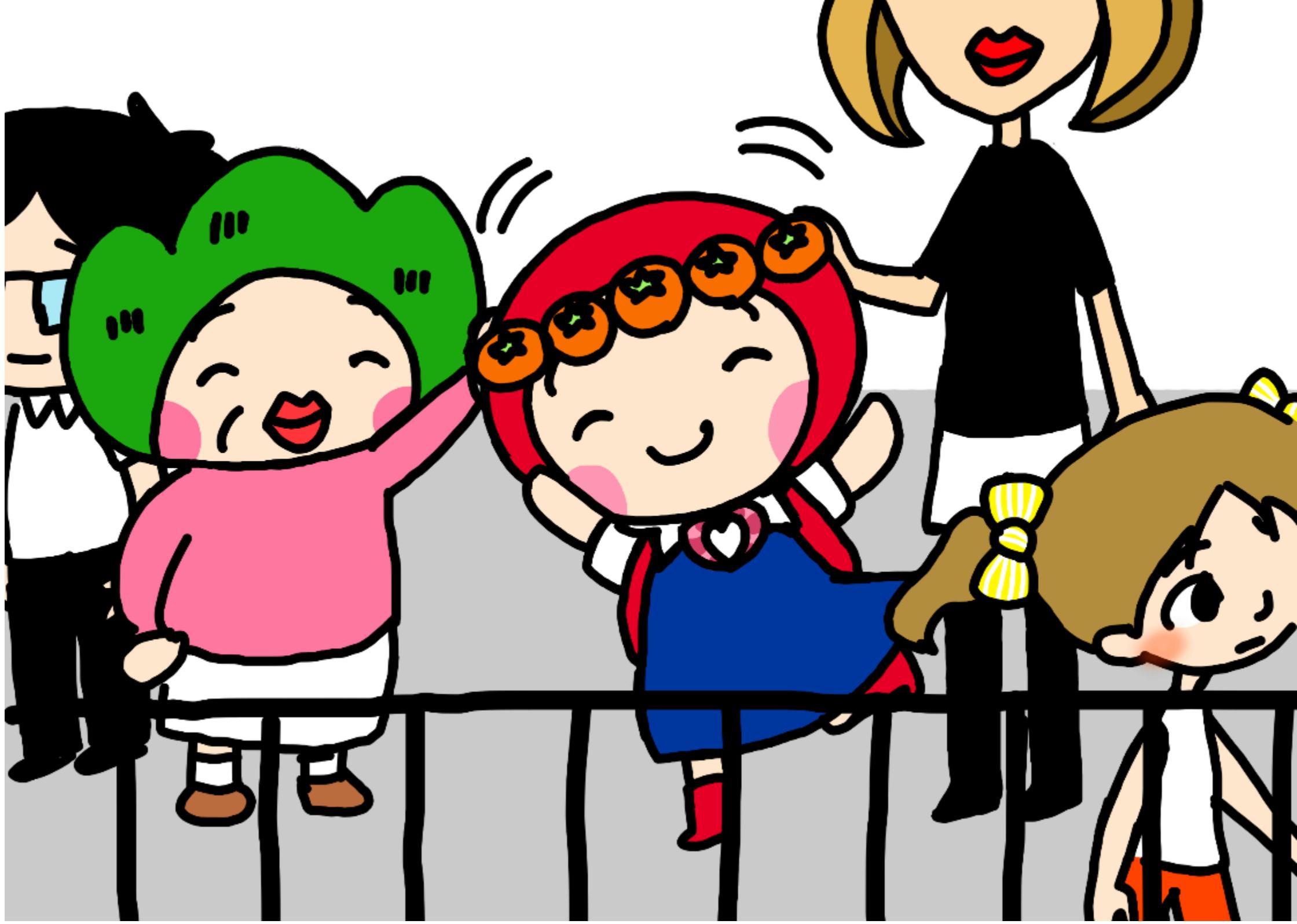
⑩ お巡りさんも後ろから走ってきて、「早く避難ビルに上がりなさい！」って叫んでるよ！





⑪ 「自分で考えて避難できて、ホント偉いねえ。」ってお母さんに褒められた。防災の勉強をしてて良かった。家族や近所の人達もここまで逃げる事が出来て良かった。





⑫ しばらくすると、「体調の悪い人はいませんか？」って、お巡りさんが聞いたよ。そうしたら、頭に怪我をしたおじいさんが手を上げたよ。逃げる途中で上から落ちてきた窓ガラスの破片が頭に当たったんだって。近所のお兄さんに助けられながらここまで来たみたい。ケガ大丈夫かなあ？

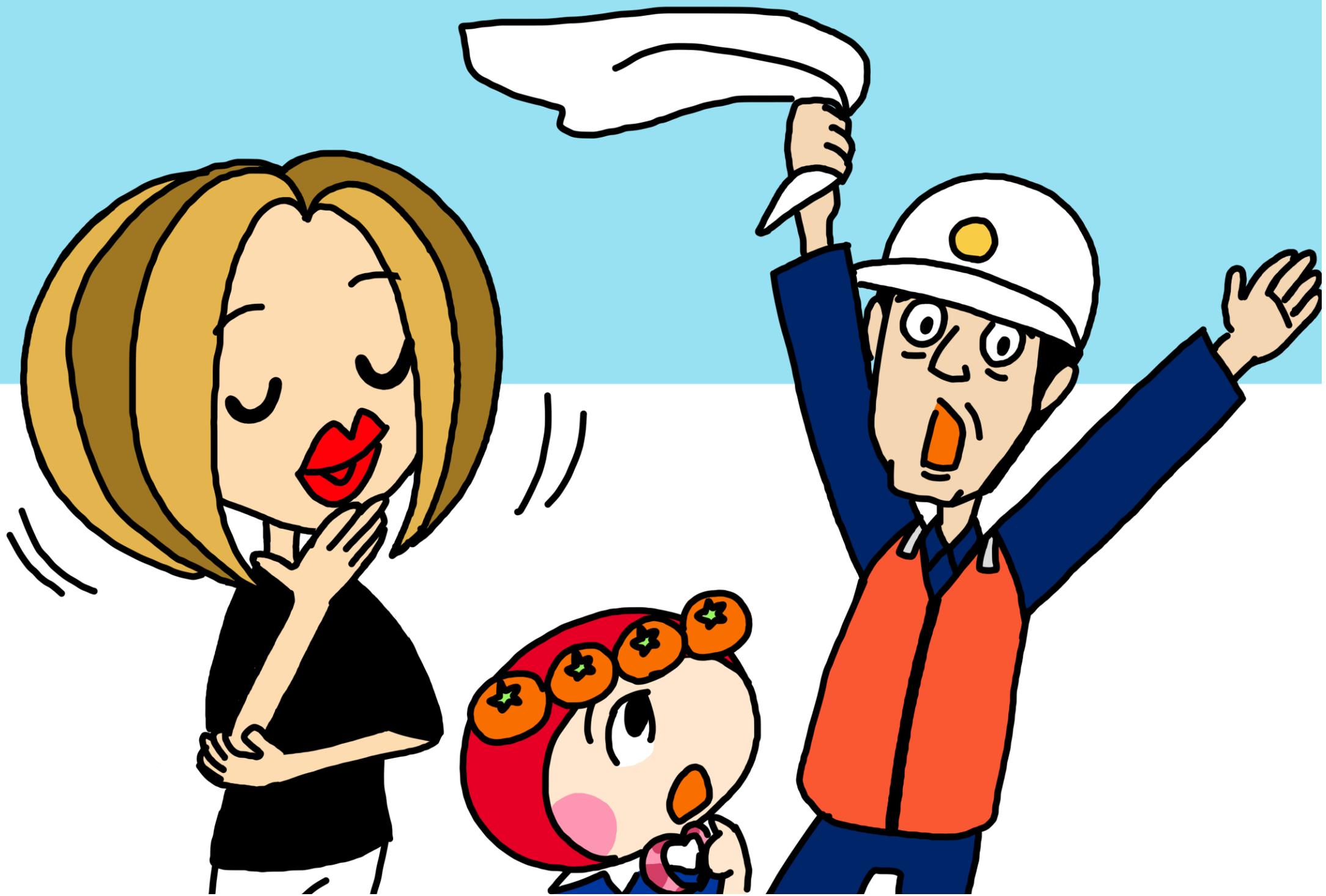




⑬ そしたら、お巡りさんがみんなに言ったよ。「警察のヘリコプターに助けに来てもらうよう、先程伝えました。ですので、ヘリコプターが近くまで来たら、ここだよって分かるように、みなさんで力を合わせて白い布を振ってください！」だった。

「なるほどねー、こうして助けを呼ぶのかー」って、すまほ姉さんが関心してたよ。白って自然にはない色だから、上から見ると目立つんだってさ。





⑭ お巡りさんの説明が終わってすぐに、ヘリコプターの音がして、上を見たらこっちに向かっているのが見えたよ。すると、タワーにいるみんなは、お巡りさんの言ったとおり、白い上着を脱いだり、白いハンカチを出したりして、ヘリコプターに向かって一生懸命振ったんだ。私も、もちろんハンカチを目一杯振ったよ。





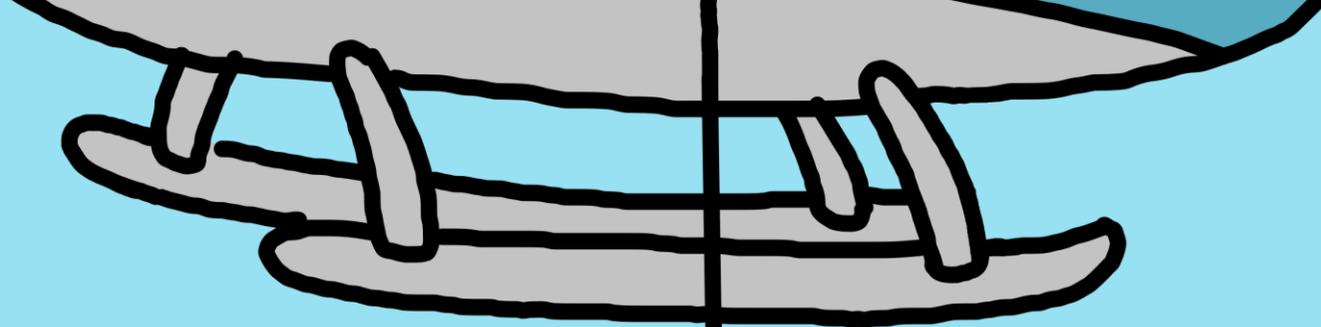
⑮ そうしたら、ヘリコプターに乗っていたお兄さん達が、ヘリコプターからライトを点けたり消したりして、私達に見えてるよ、分かってるよって合図してくれたんだ！





⑩ ヘリコプターが避難ビルの上まで来ると、ドアが開いて中からお兄さんがロープをつたって降りてきたんだ。そして、ケガをしたおじいさんを連れてヘリコプターに戻っていったよ。お巡りさんが言うには、病院まであのおじいさんを運んで行ってお医者さんに診てもらうんだって。早く治してもらえるといいな。それにしても、ヘリコプターのお兄さん達は、素早く動いて、すぐにおじいさんを助けていったよ。カッコいい！





⑰ ザッパーン！わあ、すごーい音！

下を見てみたら、タワーの下に津波が打ち寄せて来たよ！町に海の水が流れ込んできて、車も浮かんでるよ。この町はどうなってるの！？津波の力って、こんなに凄いの！？ざぶりんから色々な話は聞いていたけど、こんなに怖いものだったなんて。





⑱ そういえば、ざぶりんも（津波）人間に悪いことをしたくはないんだって言ってたっけ。

でも、海の底で地震が起きたり、崖崩れがあったりするもんだから、ざぶりんが生まれて、私達のところに来ることになっちゃうんだって。

ざぶりんは、できてしまったら自分で止められないから、すぐに高い所に逃げてって言ってたっけ。その意味が、やっと分かった。





⑱ みんなも私と約束して！海や川の近くにおいて地震が来たら、すぐに高い所に逃げるって！私達の住んでいる静岡県は、地震が起きてざぶりんが来るまでに、あまり時間がないんだ。だから津波の警報を待って逃げると間に合わないんだよ。

地震が来たら、よーい、どん！で、すぐに高い所へ逃げるんだ！約束だよ！





⑳ 今日の私は逃げるのに成功したよ。でも、避難はゲームじゃないんだ。だから、失敗は無しだよ。

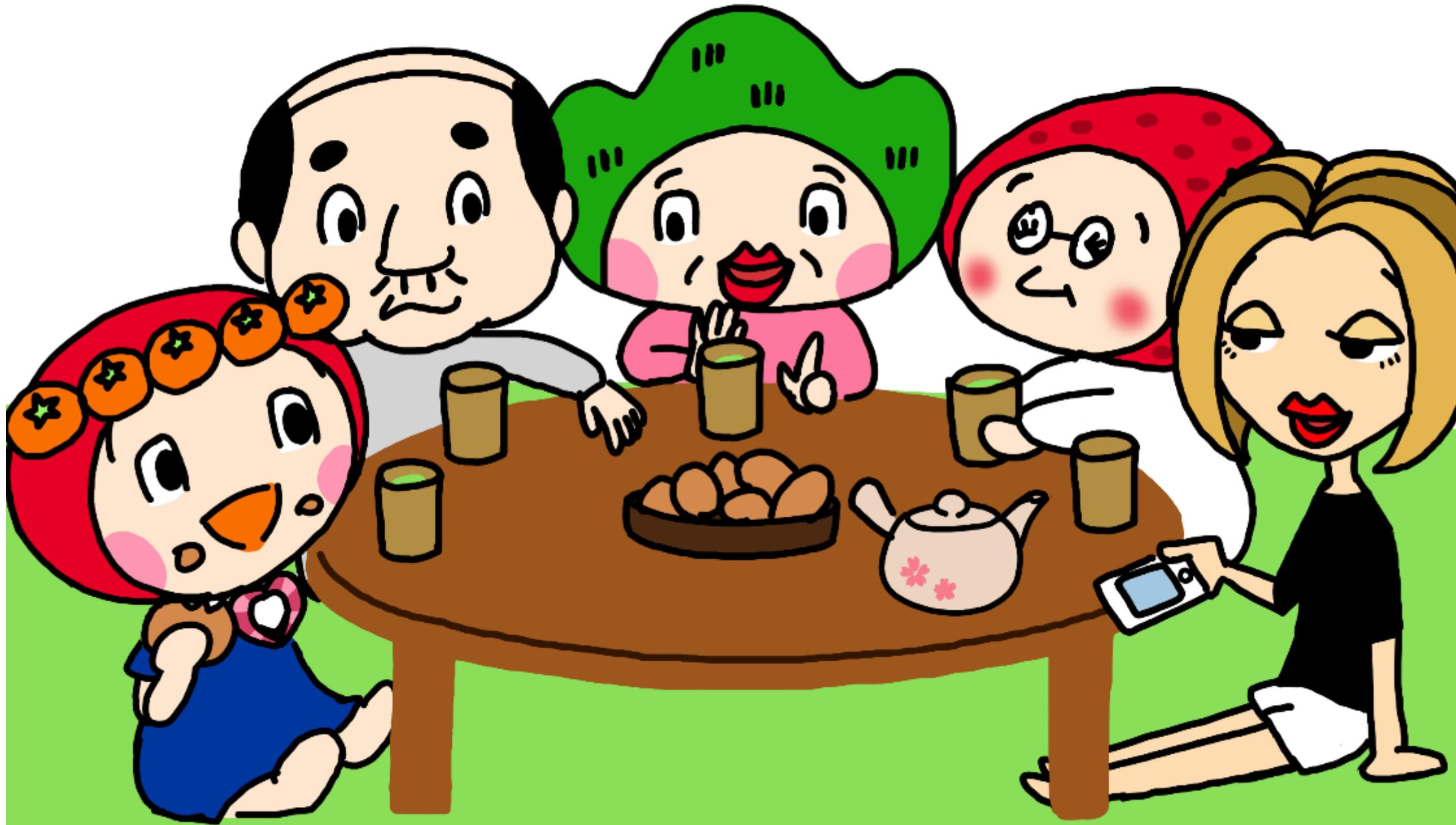
ここで、私から成功の2つのコツを教えるね。

1つめ！普段、お父さんやお母さんと約束しておこう！「海や川の近くで地震が起きたら、私はすぐに逃げてから、私を探しに家に戻らないで」って。

2つめ！地震の後、動けるようになったら、よーいドン！で逃げること！

2つだけだから、大丈夫だね。1つ目の約束は、今日帰ったらやっておこうね。





⑫ 今日の私のように大人の方が近くにいないくて、自分一人で逃げなきゃいけないときは、自動販売機やブロック塀に近づいたりせずに、頭を守りながら逃げようね。

それから、津波は何度も来るから、津波が来ないよって大人の方が言うまで家に戻ったり、低い所へ降りて行っちゃだめだからね。てんてんと約束だよ！

★ 紙芝居後の話

(この後、児童に問いかけて、模擬体験後の内容把握について検証しましょう。)

ここで、みなさん、質問です！

てんてんは、地震があったときに一人でしたよね。でも、津波からの避難に成功しました。

【問い】

てんてんはどうして津波からの避難に成功したのでしょうか。

また、てんてんが自信を持って動くことができたのは、どうしてでしょうか。

答え1つではありません。たくさん、みなさんの考えを言ってください。



【回答例】

(他の回答でも構いません。自ら考える姿勢が防災では重要ですので、児童のさまざまなアイデアを受け入れ、考える力を養ってください。ただし、身に危険が及ぶ回答であれば、どうして危険であるかも含めて教示願います。)

Ans 1) ランドセルを防災ずきんの代わりにして、頭を守るぞ←ケガを防いだ。

Ans 2) お巡りさんが「ここは地震の後、〇分で津波が来るところだよ。」って話してくれたっけ。ざぶりんも、「地震が来たら津波の私もおじゃまするかもしれなくってよ」って言ってた。←お巡りさんの言葉をしっかり聞いていて覚えていた。

Ans 3) このマークの津波避難ビル(タワー)←を覚えていて、津波避難ビルを目指した。

Ans 4) 何度も訓練←地震が来たらどんな風に動くか、しっかり体で覚えていた。

Ans 5) 「家族を心配して家に戻っちゃだめ！津波てんでんこだよ」←家族(おばあちゃん)と、地震が起きたら家族の元に戻らずに、「津波てんでんこ」を実行して一人でも逃げると、前もって家族と約束していた。

Ans 6) 狭い道を避けて広い道を通りなさい…、山や崖の側を通ったら、土が崩れて来たりして危ないよね。周りが安全か見ながら…←危険な避難経路を避けたことで怪我せずに済んだ。

※ 同じ山でも、津波の避難場所になっている山(命山など)は安全です。標識で見分けてみましょう。



児童向け「シミュレーション紙芝居」

【表紙】 てんてんとぼうさいをまなぼう！

～「津波てんでんこ」を実行するぞ！の巻～



★ 紙芝居前の話

ここに出て来る「てんてん」という女の子は、みなさんと同じ小学生です。みなさんは、てんてんになったつもりで、これからのお話を聞いて下さい。このお話は、お家や学校が海の近くにある子供達だけの話ではありません。みなさんが海や川の近くに遊びに行った時、突然地震に襲われたときにも役に立つお話です。ですから、みなさんには、てんてんと同じように考え、同じように動くことができるように今日のお話を覚えておいてもらいたいと思います。そして、みなさんだけでなく家族の命も助かるように、お家に帰ったら、お話してあげて下さい。